地域福祉実践理論研究の検証 その１
～三鷹市・都城市・茅野市における調査研究をもとに～

地域福祉研究が日本において本格的に議論されるようになって40 年余りが経過し、その発展過程において、地域組織化、住民主体論、ボランティア論、在宅福祉サービスの組織化、非営利組織、地域主権、新しい公共と協働といった様々な論点が議論されてきた。

一方で市町村による地域間格差の問題やガバナンスのあり方、また人口減社会の進展や集落機能の低下、社会的孤立や生活困窮が増大することで、地域社会の基盤そのものが脆弱化している。そうしたなかで、地域福祉の固有性そのものが再検討を迫られている。

このような背景を踏まえ、コミュニティ再生に向けた地域福祉実践理論の構築をめざし、2015～2017年度の３か年、科研費による研究事業を展開している。この研究では、今日的な地域福祉を検討する分析枠組みとして、「地域住民の参加と協働」､「福祉コミュニティと社会的排除」､「地域包括ケアシステム」､「地域再生と地域福祉」の4点を抽出し、地域福祉研究による理論が実践と政策にどのように関与してきたのか、あるいは実践と政策がどのように理論形成に影響を与えてきたのかという相関について検討を行っているところである。

そこで本シンポジウムでは、２０１５年度に実施した、地域福祉実践において先駆的な実践を展開する３市（東京都三鷹市、長野県茅野市、宮崎県都城市）に焦点を当てた地域間比較研究について、報告を行う。

☆論点☆

今日的な地域福祉を検討する分析枠組みとして、「地域住民の参加と協働」、「地域包括ケアシステム」、「地域再生と地域福祉」の視点から、地域福祉研究による理論と実践と政策がどのように関与してきたのかという相関について検討する。以上の議論を深めることによって、今日的な論点を包含した新たな地域福祉の実践理論研究に寄与できるものと考える。

■コーディネーター　市川　一宏 氏（ ルーテル学院大学 ）

■コメンテーター　　牧里　毎治 氏（ 関西学院大学 ）

■報告者　　室田　信一 氏（ 首都大学東京 ）
永田　　祐 氏（ 同志社大学 ）
菱沼　幹男 氏（ 日本社会事業大学 ）